

## コナラ ブナ科

- ・学名 *Quercus serrata*
- ・公園内の雑木林に自生

朝晩の冷え込みから、秋の始まりを感じる季節となりました。文化ゾーン内でもコナラのどんぐりが地面にたくさん落ち、秋を知らせてくれます。

コナラは、北海道南部から九州まで日本の広範囲に分布している落葉広葉樹です。日当たりのよい山野に生え、公園樹として植えられることが多いです。材は建築材や家具材、薪や炭に利用され、私たち人間にとってはなじみの深い樹木といえます。花期は春で、花は雄花と雌花に分かれますが、同じ木にどちらの花もつく雌雄同株です。

コナラのようなブナ科の植物はどんぐりを落として子孫を残します。ブナ科のどんぐりは、同じ時期にどんぐりを落とすため、秋の地面は色々なブ

ナ類のどんぐりが混ざり合い、にぎやかな雰囲気になりますね。さて、ブナ類のどんぐりはどのように見分けられるのでしょうか？

どんぐりは、帽子のような「殻斗(かくと)」といわれる部分と実にあたる「堅果(けんか)」の部分の違いによって見分けられます。例えば、コナラと同じ落葉広葉樹であるクヌギやミズナラは殻斗の表面の模様や模様一つ一つの大きさや堅果の大きさで見分けることができます。

### どんぐりの違い

コナラ	ミズナラ	クヌギ
		
1.5〜2センチ	3センチくらい	2〜3センチ
<ul style="list-style-type: none"><li>・実は細長い</li><li>・ミズナラよりわり小さい</li><li>・うろこ状の模様の殻斗</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・うろこ状の模様の殻斗</li><li>・コナラよりうろこ模様の一つひとつが大きい</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・実は丸くて大きい</li><li>・殻斗の模様が細長くのび、反り返っている</li></ul>

他のブナ科の木も色々な模様や形をしています。どんぐりを見分けるときは「殻斗」と「堅果」に注目して観察してみてくださいね。

ところで、公園内で枝と葉がついた青いコナラのどんぐりが落ちているのを見たことはありませんか？ どうして枝と葉と一緒に、しかも青いまま落ちているのでしょうか？



これは「ハイロチョッキリ」という昆虫のしわざです。ハイロチョッキリは長い口を持ち、とてもユーモラスな見た目をしています。その口を使ってどんぐりの殻斗に穴をあけて、その中に卵を産み付けます。そして産卵が終わると、口を使って枝を切り落とすのです。ハイロチョッキリはこの枝の切り落としに3時間以上かけるといいます！



ハイロチョッキリ

どんぐりの中で生まれた幼虫は、どんぐりを食べて成長し、やがてどんぐりの外に出て土の中に移動します。なので、どんぐりを持ち帰るとき、地面に落ちている、枝葉付きで殻斗に穴が開いたどんぐりは要注意です！後になって、どんぐりからひょっこり幼虫が出てくる可能性があります。



↑オレンジ色の丸のところに穴が見られます

皆さんも、ハイイロチョッキリの幼虫に気を付けながら、どんぐり集めを楽しんでみてはいかがでしょうか？

(龍谷大学先端理工学部・栞原萌葉)